③激動の幕末～明治期

内容	詳細
リーガロイヤルホテル付近に新選組の屯所はあった	新選組の屯所は隊員の増強によって壬生が手狭になったことで、1865年に西本願寺内に移転した。 しかし境内に屯所があることを問題視した西本願寺は、1867年に移転費用を負担することで、不動堂村に作られた屯所に移転した。
東本願寺には防火のために琵琶湖疏水から水を引いた「本願寺水道」がある	1897年に東本願寺が防火用水の確保のために琵琶湖疎水の水を蹴上付近から東本願寺までの約4.6キロの鋳鉄管を建設した。防火用水だけではなく、東本願寺前の堀の渉成園の池の水としても活用されていた。現在は老朽化により2008年に停水し、現在は使用されていない。
油小路通木津屋橋上るの本光寺前で新選組と御陵衛士との抗争である「油小路事件」が発生した。	新選組参謀である伊東甲子太郎は尊皇派であり、次第に隊長である近藤勇と相反するようになり、同志とともに新選組を離脱することとなる。 しかし新選組との対立は深く、1867年11月に近藤勇らは以東を酒宴に招き、その帰途である本光寺前にて暗殺される。 その後新選組は伊東の遺骸を放置することで御陵衛士をおびき出し、同志らも誅殺した。
油小路通花屋町下るの天満屋で海援隊及び陸援隊が紀州藩士三浦休太郎を襲い新撰組と戦った「天満屋事件」が発生した。	1867年に坂本龍馬と中岡慎太郎が近江屋で暗殺されたが、この暗殺の黒幕には「いろは丸沈没事件」で多額の賠償金を支払わされた恨みを持つ紀州藩によるものと考えていた。1868年1月に天満屋に滞在中の紀州藩公用人の三浦休太郎を海援隊及び陸援隊が襲撃し、護衛の新選組と戦った。
かっての花街島原では、幕末には討幕派の西郷隆盛、坂本龍馬たち、佐幕派の近藤勇、土方歳三たち双方が討議や宴会を行っていた。	―